

【6. 附則：プレゼンテーション資料】

「① 現地法人の積極参画」に関するプレゼンテーション資料

平成19年度NGO研究会 2007年12月13日

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 様 とのベトナムでの環境教育活動



株式会社INAX 環境戦略部
久留島 豊一

INAXの会社概要

07年6月現在

- 設立 1924年(大正13年)2月
1985年にCIを導入し、INAXに社名変更
2001年トステム(株)との経営統合により、
(株)INAXトステムHD(現:住生活G)を設立
- 資本金 485億円
- 売上高 3,162億円(グループ連結)
- 経常利益 189億円(同上)
- 従業員 12,587名(国内子会社14社含む)
- 事業所 支社 21ヶ所 工場 19ヶ所(子会社含む)
- 海外事業所 6ヶ所(グループ連結対象のみ)
- 子会社 19社(グループ連結対象のみ、海外含む)
- 主要事業 タイル建材・住宅設備機器(トイレ・バス・キッチン・洗面)の製造・販売

社長 川本 毅一



事業所在地 (国内)

本社: 愛知県常滑市
東京本部: 東京都/日本橋(事業本部・営業本部)

- 支社 (21ヶ所)
- 営業所 (53ヶ所)
- ▲ ショールーム(57店舗、営業所併設含む)
- ◆ 工場 (19ヶ所、子会社含む)

(※07年6月現在)



海外の事業拠点



中国・台湾・ベトナムの事業拠点

- ① 上海・伊奈中国…販売
- ② 蘇州・蘇州建材…内装タイル
・蘇州潔具…水栓金具
・蘇州陶器…衛生陶器
- ③ 杭州・電信機電…シャワートイレ
- ④ 台湾・台湾INAX…外装タイル
- ⑤ ベトナム・VINAX…衛生陶器

その他の事業所
◆RCCA-INAX(タイ/タイランド)
◆INAX Itaku(タイ) ◆INAX USAG(タイ)

上海 直営ショールーム
他に中国国内に7店

INAXの文化活動の考え方

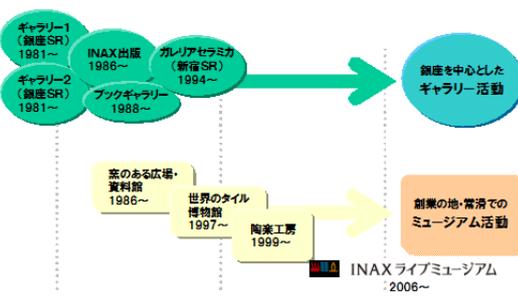
企業は、経済機関であるとともに文化機関である

「独自に、独創的に、継続する」を
モットーに「2DKの文化活動」



- タイルや水まわりの空間提案・ものづくりの背景には、生活文化への深い思い・造詣が必要
- 文化活動の地道な継続も、社員の中にINAX文化として蓄積され、ひいては社会・地域の資産になっていく

INAXの文化活動の歩み



- キャリアー1 (銀座SR) 1981～
- INAX出版 1986～
- カリフォルニアセラミカ (新宿SR) 1994～
- キャリアー2 (銀座SR) 1981～
- ブックギャラリー 1988～
- そのある広場・資料館 1986～
- 世界のタイル 博物館 1997～
- 陶美工房 1999～
- 銀座を中心としたキャリアー活動
- 創業の地・常滑でのミュージアム活動
- INAXライブミュージアム 2006～

環境を切り口とした社会貢献活動の検討

■ 環境活動を積極的に進める中、「社会貢献活動をやりたい」という声次第に高まってきた。

- 大きな生産拠点があるところでやりたい(社会的責任)
- 小さく開始し、汗をかきたい(費用、規模、方法)
- 水に関する知識やノウハウを活かしたい(事業性)
- あまり実施されていないところでやりたい(2DK)
- 国内で環境出前授業を実施
- NGOとの連携経験はない

↓

ベトナムにてNGOと協働して環境教育活動を行いたい

↑

- ベトナム政府や学校からのニーズが高く、積極的である
- 急速な経済発展に、公害対策や衛生面などでのインフラが追いつかない

協働するNGOの選定

■ ベトナムでのNGOとの協働の必要性

- ベトナムでは、政府登録されたNGOしか社会貢献活動ができない
- NGOの実績のある教育プログラムや人材を活用したい

信頼性の高いNGO選定が環境教育を成功させる最大要因

■ NGOの選定方法(行く先々で、珍しいと言われました)

- 取引企業を通じ、『Think the Earth』に候補選定を依頼(約20団体)
- 10団体以下にしぼり、NGOの国内事務所へヒアリング
- 数団体にしぼり、現地の活動状況を、現地の人たちからヒアリング
- 『セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン』と『ブリッジ・エーシア・ジャパン』との協働を決定

水の保全に関する環境教育の開始(テキスト例)

イエンバイ省の中学校4校 約1200名対象 Child to Child 方式

Water conservation educational materials including text and illustrations of water cycle and pollution.

水の保全に関する環境教育の開始(授業の様子)

VINAXのSon課長の講義

生徒たちのディスカッション

水質検査の実習

生徒たちの発表

NGOとの連携メリットなど

■ メリット

- 行政や学校との良好な関係を築いており、快く活動を受け入れて頂いた
- 実績のある教育プログラムが用意されており、安心して任せられた
- 現地スタッフの向上心が高く、教材のブラッシュアップに力がいった

■ 反省点

- まだ開始したばかりで、順調に推移している(反省は1年経過してから)
- 国内スタッフと現地スタッフの裁量 が分かりにくく、当初はどちらを向ければ良いのか分からなかった

今後の展望

■ エコプロダクツ国際展

2008年3月1日~4日 ベトナム ハノイ 国際会議場
INAXとして出展 生徒の代表を招待し、活動内容を紹介

■ 成果発表会

4校の発表会を、2008年6月頃に予定

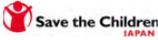
■ イエンバイ省の他の学校へ展開

2008年度は、新規4校で実施予定

■ 都市部での環境教育

環境問題は都市部の方が直近の影響が大きい
経済面とは切り離れた、都市部と農村部との
コラボレーションも必要ではないか

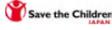
平成19年度NGO研究会




INAX様との ベトナム環境教育事業

2007年12月13日
社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
マーケティング部コーポレートサービス 堀江由美子

セーブ・ザ・チルドレンとは？




◆ セーブ・ザ・チルドレンは、国連公認に承認された世界最大のネットワークを持つ、子どものための民間の国際援助団体(NGO)です。

◆ 子どもたちとその家族、周囲の環境をよりよいものに改善し、子どもの明るい未来を実現するため、「子どもの権利条約」を理念として活動しています。

◆ 1919年に英国で創立。約90年にわたる活動から、各国政府や国連組織からも、世界のNGOの代表格として、その重要性を認められています。

◆ セーブ・ザ・チルドレンの理念に同意した加盟国はセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンを含み28ヶ国あります。世界120ヶ国以上で活動しています。

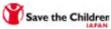
◆ 日本では、1986年に設立。外務省から、社団法人及び特定公益増進法人として認可を受けています。

わたしたちのビジョン
セーブ・ザ・チルドレンは

- ◆ 子どもを尊重し、大切にす世界
- ◆ 子どもの声を聞き、そこから学ぶ世界
- ◆ すべての子どもが生かされる希望とあらゆる機会を持つ世界

ーの実現を目指して活動しています。

支援活動内容と世界最大のネットワーク



子ども支援活動の柱

- ◆ 教育支援
- ◆ 食料支援、栄養指導
- ◆ 医療保健
- ◆ 児童虐待抑止的労働からの解放
- ◆ HIVエイズ問題
- ◆ 紛争と災害への緊急援助

特に心がけていること

- ◆ 子どもたちの声をきき、活動に反映すること
- ◆ 地味の人々と行政の協力強化を行うこと
⇒未来をみすえて、自立できるように築くために

NGOとして世界最大のネットワーク

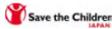
世界中に広がる子ども支援

- ◆ 現在、世界120ヶ国以上で支援活動を展開しています。



■ セーブ・ザ・チルドレンが支援活動を行っている地域

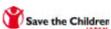
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動



セーブ・ザ・チルドレン世界連盟加盟国全体では、120ヶ国以上で支援活動を行っています。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでは、アジア5ヶ国に駐在員を置いて子ども達の支援を行っています。

<p>ネパール</p> <p>教育支援「すべての子どもに教育を」</p> <p>アフガニスタン</p> <p>教育支援 基礎教育の質とアクセスの向上</p> <p>モンゴル</p> <p>ストリートチルドレン支援と障がい児への教育支援</p> <p>国内事業</p> <p>◇「Speaking Out」 ～日本の子どもたちへの国際理解・「子どもの権利」啓蒙活動～</p> <p>◇チャイルド・ライヴ・センター ～「子どもの権利」推進・理解のための情報発信センター～</p>	<p>ベトナム</p> <p>「総合的子どもの発達事業」</p> <p>ミャンマー</p> <p>「子どもの健康と栄養事業」</p> <p>緊急支援 (スマトラ、南アジア洪水・パキスタン・ネパール、インドネシア地震、ヨルダン)</p> <p>緊急援助(スマトラ、南アジア洪水、インドネシア地震)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆緊急物資支給とチャイルドプロテクション ◆教育や復旧支援事業 <p>中長期的緊急支援(ヨルダン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆イラク避難民の子どもたちへの幼児教育支援
---	---

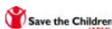
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのベトナムでの活動



- 1995年よりベトナムに日本人駐在員を派遣
総合的子どもの発達事業(栄養改善、母子保健など)、乳幼児総合発育事業、貧困女性のための小規模貸付事業などを実施
- ベトナム政府より駐在員事務所開設の認可を受けている数少ない日本のNGO
- 2002年より子どもの権利や環境問題を扱い、子どもの参加促進
・ライフスキル向上による生活改善を目指す子ども参加促進事業開始
- 活動地(イエンバイ省)の背景
 - 少数民族が多く居住する山岳地域
 - 基礎インフラの未整備、劣悪な衛生環境、環境保全意識の欠落
 - 子どもの教育機会が著しく限られている



INAX様とのベトナム環境教育事業



連携理由

- ・ SCJの経験を活かして企業と密接に連携できる良い機会と捉えた
- ・ 水を取り巻く環境が整わない山岳地帯において、ベトナムで衛生陶器シェア一位のINAXとの環境教育活動には大きな意義があると考えた



山水を汲う人



湧水口と汚水



農村地域のトイレ

INAX様とのベトナム環境教育事業

Save the Children JAPAN

■連携したから実現できたこと

- 対象地域、事業へのインパクトの拡大
 - INAXからの専門的インプット、リソース提供 (教材提供、現地法人VINAXより講師派遣)
 - 明確な役割分担
 - INAX: 環境教育に関する内容監修
 - SCJ: パートナーとの調整、子どもの参加促進に基づく授業進行
- 日本国内におけるインパクト
 - 企業・NGOの連携の新しいあり方の提示
 - 団体認知・評価の向上



学校裏への教材説明



VINAXン長による水質調査実習

INAX様とのベトナム環境教育事業

Save the Children JAPAN

■連携したことで学んだ点

- ローカルスタッフにとって、視野を広める良い機会となった
- SCJ本部およびベトナム事務所においても、企業がNGOに求める点について理解を深めることができた



コミュニケーションスキルの練習



寸劇で知識の定着を図る

INAX様とのベトナム環境教育事業

Save the Children JAPAN

■交渉で大変だった点

- 企業側とNGO側の時間や規模に関するビジョンの差を調整
- 企業とNGOのそれぞれの関わり方を実務レベルでよく話し合うことが重要



水環境に関するディスカッション



水質調査実習

INAX様とのベトナム環境教育事業

Save the Children JAPAN

■企業への評価や要望

- 当初より大変意欲的・積極的に取り組んで頂いている
 - 当初計画になかった展示会への子どもも参加など、新しい広がりも
- 企業の持つ専門性を事業へのインプットとして直接活かすことができたのは貴重な経験となった
- 一般的に、企業にはNGOの活動方針を理解頂きたい
 - 企業は目に見える成果・透明性を求めがちだが、NGOはスタッフや住民の能力強化、持続可能性にも重点を置いている
 - より困難な状況・場所で活動を行うのが、NGOの活動方針

→ より困難な事業へのサポートを行っている企業が評価される環境へ!

INAX様とのベトナム環境教育事業

Save the Children JAPAN

■今後の展望

- 2008年度の継続実施に向け、提案準備中
- 2008年3月にハノイで開催のエコプロダクツ国際展にて子どもたちを招聘頂く予定
- 事業終了時に、事業成果発表会を予定
- 本事業に賛同し、PTAが寄付金を募り始めた中学校も。こうした地元での波及効果を高めるため、今後も継続・拡大を希望



村内の清掃を行う子どもたち